



松尾 江津子

所属 教養教育科(外国語)
職名 准教授 学位 修士(文学)
(写真は、提携校へ学生引率@上海)

イギリス文学の中でも、ウィリアム・シェイクスピア(1564-1616)の演劇を中心に研究しています。エリザベス朝演劇とよばれる、史上まれにみる演劇の黄金期、女王から庶民まで人々の心をつかんだ演劇というメディアに、私も心惹かれています。演劇とは、“Mirror up to Nature (自然を映す鏡)” ハムレットの言葉です。

(右) ウィリアム・シェイクスピア



(下) イギリスのロイヤル・シェイクスピア劇場のカフェにて、シェイクスピアの顔のショートブレッドとRSCのラテアート



研究

専門 イギリス演劇(特に初期近代演劇) パフォーマンス研究、フェミニズム、ジェンダー・セクシュアリティ研究

所属学会 日本英文学会、日本シェイクスピア協会、17世紀英文学会、マローン学会

主研究テーマ イギリス初期近代演劇における女同士の関係の表象

キーワード ウィリアム・シェイクスピア、初期近代イギリス演劇、ジェンダー・セクシュアリティ、クイアスタディズ

Researchmap <https://researchmap.jp/read0152456/>



ロンドンのグローブ座。シェイクスピアが劇を上演していた時代の劇場(グローブ座)を再現して、今もシェイクスピア劇などを上演しています。

教育

担当授業 英語1A(1年)、英語特講II(3年)、英語総合II(専攻科2年) デザイン基礎(2年)

取り組み 機会があれば、授業でシェイクスピアの原文を読んだり、映画を観たりする試みをしています。昨年は専攻科2年生で『ハムレット』を原文で読みました。半期しかないのですが、“To be, or not to be, that is the question”で始まる有名な独白の出だし10行は、全員英語で暗誦できました。役を振って劇の立稽古のような読み合わせ(Play Reading)もしました。『ジュリアス・シーザー』で今年はやります。

クラブ担当 卓球部 部長